

## 第7章 基本目標の整理

### 7-1. 豊見城市版総合戦略の基本的な目標・取組方針

#### (1)基本目標

本市は、人口ビジョンで位置付けたように、現在の旺盛な活力をいかし、今後の環境の変化に対応できる底力のあるまちづくりを目指す。

現在の本市は、産業面ではやや力不足が見られ、那覇市のベッドタウン的な存在であるが、若い世代が多く居住し、子育て意欲や定住意欲が強いことが大きな強みである。また継続的に都市基盤の整備が進められているところであり、市の活力の推進力にもなっている。

したがって今後5年間の総合戦略の目標は、産業振興に力を入れながら、住みやすく魅力ある環境づくりを進め、市民が誇りを持てる「選ばれるまちづくり」を実現することとする。

分野別目標として、国の総合戦略の4つの基本方向に対応した4つの目標を定める。

| 豊見城市の基本目標                          | 国の基本目標                                |
|------------------------------------|---------------------------------------|
| ① 豊見城市の特徴をいかした「しごと」の創出             | 地方における安定した雇用を創出する                     |
| ② 豊見城市のもつ魅力をいかした「観光・交流」の活性化        | 地方への新しい人の流れをつくる                       |
| ③ 豊見城市で安心して子どもを産み育てる「ひと」にやさしい環境の充実 | 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる                |
| ④ 豊見城市に愛着を持ち、住み続けられる「まち」の形成        | 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する |

#### (2)取組の方針

今後、5年間で実施する総合戦略においては、第4次豊見城市総合計画の趣旨を踏まえ、他計画の施策・事業等との整合性を確保し、現在進めている施策のうち特に地方創生として重要な取組を推進するとともに、関連施策のパッケージによってより効果を高めることを図る。

また国の総合戦略に盛り込まれた政策5原則（自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視）を踏まえ、地域に根づく取組を推進する。そのためにも、産官学金などの多様な分野からなる審議会を設置し、議会とも連携を図る取組体制を構築する。

P D C A サイクルを確立し、策定から検証・改善のプロセスを実施する。

## 7-2. 政策分野ごとの目標と基本的方向

### (1)基本目標Ⅰ. 豊見城市の特徴をいかした「しごと」の創出

本市は産業基盤の面でやや弱いところがあり、多くの市民が隣接する那覇市を就業地としている。また商店街といえる店舗の集積地は限られているが、新庁舎の移転を機に中心市街地の新たな賑わいづくりも期待される。

1人当たりの雇用者所得は、地域住民ベースでは県平均を上回っているが、地域内勤務者ベースでは県平均を下回っている。市内での雇用の場を増やし、地域経済を活性化させる必要がある。市内の産業全体としては、就業率や経営、雇用環境の不安定さなどが課題であり、安定した産業の創出や雇用環境の改善が求められる。また事業者の大多数を占めるのは中小規模事業者であるため、ここで働く人たちの雇用の安定を図ることも重要である。

共働き率の高い中、女性の雇用環境の不安定さも問題の一つとなっており、女性をはじめ多様な人材が活躍できるよう、働きやすい環境づくりが望まれる。

《基本目標Ⅰの目標値設定》

| 指標     | 基準値            | 目標値            |
|--------|----------------|----------------|
| 市内従業者数 | 19,717人（平成24年） | 24,000人（平成31年） |

※基準値は平成24年『経済センサス』での従業者数  
 ※目標値は毎年の増加率を約3%（県平均増加率と同等）とした値

### 基本施策① とみぐすくの都市ブランド力の向上

市民一人ひとりが本市をもっと好きになり、地域への誇りを持って働きたくなるような取組を進める。また市外・県外の人に本市の持つ魅力を広くPRし、本市に移り住んで働きたくなるような気持ちを持つよう、都市ブランド力の向上を目指す。

| 重要業績評価指標（KPI）      | 基準値            | 目標値            |
|--------------------|----------------|----------------|
| 1. 豊崎地区企業従業者数      | 3,249人（平成25年度） | 5,000人（平成31年度） |
| 2. 医療・福祉分野における従業者数 | 4,204人（平成24年度） | 5,000人（平成31年度） |
| 3. ふるさと納税への寄付件数    | 80件（平成26年度）    | 800件（平成31年度）   |

※1の基準値は『豊崎地区雇用動向調査』（市商工観光課）での値  
 ※1の目標値は年に約8%ずつ増加すると仮定した値  
 ※2の基準値は『経済センサス』での値  
 ※2の目標値は年に約3%ずつ増加すると仮定した値  
 ※3の目標値は5年で10倍にすると仮定した値

### 【個別施策】

- 豊崎地区における観光産業の都市ブランド力の向上
- 地域の資源・人材を活用した産業の創出・育成・発信（特産品開発・6次産業化・プロモーションなど）
- 「選ばれるまち」としての都市ブランド力の向上 etc...

## 基本施策② 地元企業の育成・強化

市内の大多数の事業者は小規模事業者であるが、それぞれが地域で市民の生活を支える存在であり、その雇用状況の向上による効果は大きいと考える。中小企業をとりまく環境は厳しい面があるが、沖縄の起業意欲の高さや女性起業者の多さなどの特色をいかした適切な支援に取り組むことによって、起業促進や事業継続、経営環境改善を図り、足元からの雇用環境の向上を目指す。

また地域において特色のある産業や他地域と比較して競争力の期待される産業を掘り起し、支援する。

| 重要業績評価指標（KPI）     | 基準値                 | 目標値                 |
|-------------------|---------------------|---------------------|
| 1. 年間商品販売額        | 79,255 百万円（平成 26 年） | 84,505 百万円（平成 31 年） |
| 2. ふるさと納税の特典登録業者数 | 9 社（平成 26 年度）       | 20 社（平成 31 年度）      |

※1の基準値は『平成 26 年商業統計』より

※1の目標値は平成 19 年から平成 26 年までの増加数（年間 1,050 百万円）を維持すると仮定した値

※2の目標値は5年後に2倍以上が登録していると仮定した値

### 【個別施策】

- 起業者等への支援
- 中小事業者の事業展開支援
- 住みよいまちの商業・サービス業の強化
- 域内消費の向上
- ふるさと納税の促進      etc...

## 基本施策③ 働きやすい環境づくり

就労環境の悪循環を防ぐため、早期離職の防止や雇用ニーズのミスマッチの解消について、県や関係機関とともに取り組む。また地域内の企業には正規雇用推進、人材育成推進を働きかける。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値             | 目標値             |
|---------------|-----------------|-----------------|
| 1. 女性就業率      | 61.3%（平成 22 年度） | 65.0%（平成 31 年度） |

※基準値は『国勢調査』での女性就業率（20～59 歳）

※目標値は平成 22 年度の全国平均（63.7%）を上回ると仮定した値

### 【個別施策】

- 雇用の安定化促進
- 資格習得の支援      etc...

#### 基本施策④ 豊見城市の特色をいかした新たな産業拠点の形成

本市の西海岸地域では、那覇空港に隣接する地理的優位性をいかした流通産業拠点の形成が図られているところである。流通産業は本市において産業の集積がみられ、基盤産業となりつつある上、那覇空港第2滑走路の増設や那覇空港の国際物流拠点化に伴う貨物流通量の増大などによって、今後も発展が期待される業種である。また道路旅客運送業やレンタカー業なども那覇空港の拡充に伴い、地域産業活性化への貢献が期待される。

観光産業も運輸業との連携が期待される所であり、交通の便の良さとともに海や気候をいかした観光拠点の整備やサービス拡大を図る。

一方、医療・介護事業は本市において特に雇用吸収力の高い産業であり、那覇空港の拡充などに関連して更なる発展が期待されることから、医療サービス業の集積を図り、これに応じた人材の確保・育成を進める。

| 重要業績評価指標（KPI）           | 基準値          | 目標値            |
|-------------------------|--------------|----------------|
| 1. 豊崎地区の未活用地区の活用度       | 0.0%（平成26年度） | 100.0%（平成31年度） |
| 2. 企業誘致等により、立地した企業数（累計） | 0件（平成26年度）   | 2件（平成31年度）     |

※1は平成26年度の未活用地区の活用度を0.0%とした値  
※2の目標値は中心市街地と西海岸に1件ずつ誘致すると仮定した値

#### 【個別施策】

- 医療関連業務・業種の集積促進
- 産業誘致に係る基盤整備の推進
- 物流産業の集積促進      etc...

## (2)基本目標Ⅱ．豊見城市のもつ魅力をいかした「観光・交流」の活性化

本市は全国の住みたいまちランキングでも上位に入り、実際に県内外からの転入者が多い状況である。将来、他市町村の開発計画が進むことにより相対的に優位性が薄れる可能性がある。一方、近年では観光拠点の整備が進み、県内外だけでなく、海外からも多くの観光客が訪れるようになっている。

転入者や来訪者は地域間交流を活発化し、新たな視点で地域の良さや可能性を見出せる存在でもある。ソフトパワーをいかし、交流を拡大して外からも中からも愛される本市の都市ブランド力の向上を図る。

### 《基本目標Ⅱの目標値設定》

| 指標   | 基準値             | 目標値               |
|------|-----------------|-------------------|
| 観光客数 | 230 万人（平成 23 年） | 324.5 万人（平成 31 年） |

※基準値は豊見城市観光振興計画より  
※目標値は豊見城市観光振興計画の平成 34 年目標 350 万人までの増加数を均等割で算出した値

### 基本施策① とみぐすくファン獲得の推進

瀬長島、豊見城城址跡地、豊崎海浜公園などの観光拠点の整備を継続して進めるとともに、事業者等との連携により魅力ある利活用を推進する。

地域資源を活用した新たなツーリズムを推進し、観光交流の幅を広げるとともに地域が地元の良いさを再認識する機会とする。

海外からの観光客の誘致や受け入れ環境の整備を進める。

| 重要業績評価指標（KPI）       | 基準値          | 目標値          |
|---------------------|--------------|--------------|
| 1. 休日における滞在人口率の県内順位 | 9 位（平成 26 年） | 5 位（平成 31 年） |

※基準値は RESAS における滞在人口率（休日）の県内順位  
※目標値は県内でトップ 5 を目指す

### 【個別施策】

- 地域資源をいかした新たなツーリズムの推進
- 観光拠点の整備と連携強化
- ふるさと納税の促進【再掲】
- オリンピック・パラリンピックの推進
- 観光受入環境整備の促進 etc...

## 基本施策② 定住・移住の促進

県内外からの移住希望者の住宅、仕事、子育て・教育、医療等のニーズに対して積極的に応える体制づくりを目指し、本市への人口定着を増やしていく。これにより、一層の地域の活力、にぎわいの創出に結びつける。

| 重要業績評価指標（KPI）   | 基準値         | 目標値                     |
|-----------------|-------------|-------------------------|
| 1. 生産年齢人口の社会増減数 | 289人（平成26年） | 840人<br>（平成27～平成31年の累計） |

※基準値は『住民基本台帳人口移動報告』における生産年齢（15～64歳）の社会増減数（転入-転出）

※目標値は直近3年間（平成24～26年）の社会増減数の平均数168人を毎年維持した時の値

### 【個別施策】

- 「選ばれるまち」としての都市ブランド力の向上【再掲】
- 雇用の安定化促進【再掲】
- 保育サービス・質の充実・多様化
- 特色ある教育の推進
- 移住希望者への支援体制の確立      etc...

### (3)基本目標Ⅲ. 豊見城市で安心して子どもを産み育てる「ひと」にやさしい環境の充実

本市の合計特殊出生率は自然増を維持できる水準にあるものの、ライフスタイルや意識の変化、若い世代の流入減少などの影響を受けることで、現在の水準を下回るおそれがある。

子育てにかかる経済的負担や女性への負担の大きさなどは、子どもを産みたいが産めない理由の一つと考えられる。また学齢期における教育環境も重要視されており、住む地域を選ぶ要因の一つとなっている。子育てをめぐる環境の改善を図り、社会全体が子どもを歓迎し、安心して子育てができるあたたかい豊見城市を目指す。

《基本目標Ⅲの目標値設定》

| 指標      | 基準値         | 目標値         |
|---------|-------------|-------------|
| 合計特殊出生率 | 2.01（平成26年） | 2.10（平成31年） |

※基準値は『人口動態調査』、『住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査』より算出した値  
※人口規模が長期的に維持される水準（人口置換水準）2.07を上回る値

#### 基本施策① 健康を育む保健対策の充実

妊娠期は、妊婦自身や生まれてくる子ども、家族の健康に関心を持つ大切な機会である。また、親が子どもの発育・発達と生活習慣の関係を理解することで、子どもの肥満や虫歯、生活習慣病などの未然防止につながる。今後も切れ目のない妊産婦・乳幼児への保健対策の充実を図る。周産期医療の充実や不妊治療費助成に関しては、これまでの取組を継続するとともに、支援を必要とする家庭への対策の充実を図る。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値           | 目標値           |
|---------------|---------------|---------------|
| 1. 特定健診受診率    | 33.0%（平成25年度） | 60.0%（平成31年度） |
| 2. 年少人口比率     | 20.0%（平成22年度） | 20.0%（平成31年度） |

※1の基準値は健康推進課が実施している特定健診受診の受診率

※1の目標値は健康とみぐすく21（第二次改訂）より

※2の基準値は平成22年度の『国勢調査』での年少（15歳未満）人口の比率

※2の目標値は平成22年度の年少人口比率を維持すると仮定した値

#### 【個別施策】

- 思春期・周産期を通じた若年世代の保健・医療体制の充実
- 健康寿命の延伸      etc...

## 基本施策② 子育て支援の充実

子育て世帯に対する経済的負担の軽減として、これまで取組んできた子ども医療費助成などに引き続き取り組む。

公立幼稚園における一時預かり事業の充実や認可外保育施設への支援などに取組、教育・保育施設等の円滑な利用の確保を図る。また、市民のニーズに応えられるよう、市子ども・子育て支援事業計画や市保育計画に基づいた子育て支援体制の整備を進める。

保育サービス拡充にともない、不安定かつ厳しい労働条件の改善を目指し、保育に携わる人材の確保を図る。

| 重要業績評価指標（KPI）         | 基準値             | 目標値             |
|-----------------------|-----------------|-----------------|
| 1. 待機児童数              | 60人（平成26年度）     | 0人（平成31年度）      |
| 2. 子育て支援センターの年間延べ利用人数 | 15,069人（平成25年度） | 28,925人（平成31年度） |

※1の基準値は沖縄県が実施した保育所入所待機児童数調での待機児童数

※1の目標値は平成29年に待機児童数0人を目指し、以後平成31年まで維持させると仮定した値

※2の基準値は市内の子育て支援センター（ぐっぴー・ふれんど）を平成25年度に利用した年間延べ人数

※2の目標値は豊見城市子ども・子育て支援事業計画より

### 【個別施策】

- 教育・保育施設等の円滑な利用の確保
- 保育サービス・質の充実・多様化【再掲】
- 地域ぐるみの子育て支援の推進 etc...

## 基本施策③ 教育環境の充実

教育環境の充実は居住地を選択する要因の一つである。特色ある教育を実施することで、優れた人材を育てるばかりでなく、選ばれる地域を目指す。

| 重要業績評価指標（KPI）  | 基準値          | 目標値           |
|----------------|--------------|---------------|
| 1. 小中学校「空手」習得率 | 0.0%（平成26年度） | 80.0%（平成31年度） |

※1はクラブ活動や体育の授業などで「空手」の指導を受けた児童生徒が、演舞をできる割合（習得率）

※1の目標値は「小中学校「空手」習得事業」の平成33年目標100%となるように設定した値

### 【個別施策】

- 子どもが健やかに育まれる環境づくり
- 特色ある教育の推進【再掲】 etc...



#### (4)基本目標Ⅳ. 豊見城市に愛着を持ち、住み続けられる「まち」の形成

市民は本市を静かで落ち着いたまち、便利なまちと評価している。また、移住者が本市を選んだ理由には、家賃・地価の手頃さ、交通利便性、住環境の良さなどを挙げている。県都那覇市に接しながらも郊外型ゆえにゆとりが感じることができ、また、緑が多く残っている良好な環境は、本市ならではの大きな魅力である。これをいかして、市民にとって住みやすく魅力的な美しいまちづくりを進めることが望まれる。

移住者の内訳をみると20代・30代が主で、ファミリー世帯も多く含まれていることから、転入者が定住することが市の活性化の大きなポイントになるといえる。また、高齢化社会や環境に適応した公共交通ネットワークの構築なども必要となる。若い世代の定住促進と高齢者にやさしい都市づくりを進めていく必要がある。

##### 《基本目標Ⅲの目標値設定》

| 指標  | 基準値            | 目標値            |
|-----|----------------|----------------|
| 総人口 | 61,658人（平成26年） | 63,038人（平成31年） |

※基準値は『住民基本台帳（平成26年12月末時点）』の値  
 ※目標値は人口ビジョンシミュレーションでの増加数を均等割で算出した値

#### 基本施策① 都市の成長力の維持・向上

本市では旺盛な住宅需要があり、新たな産業集積地区の整備のためにも、計画的な市街地の形成が必要である。土地利用規制の変更や用途区域拡大も視野に入れながら、土地を有効に活用し魅力あるまちづくりを目指す。

また道路整備を軸とした地域間交流や市街地の活性化、市庁舎建設をはじめとする公共施設の整備、公共交通網の充実・強化や転換など、都市構造にかかわる大きな事業の展開にあたり、将来を見据えて戦略的にまちづくりを進める。本市の立地特性をいかした就業機能、商業機能を強化し、自立性・求心力の高い都市づくりを目指す。

| 重要業績評価指標（KPI） | 基準値             | 目標値             |
|---------------|-----------------|-----------------|
| 1. 事業所数       | 2,124事業所（平成26年） | 2,300事業所（平成31年） |

※基準値は『経済センサス』の値  
 ※目標値は平成24～平成26年の伸び率2.0%を維持すると仮定した値

#### 【個別施策】

- 計画的な土地利用の推進
- 市街地開発と魅力あるまちづくり etc...

## 基本施策② 快適で暮らしやすいまちづくり

これまでの都市整備の取組を継承・発展させ、本市の風土に調和した緑豊かな美しいまちなみづくりを進める。調和のとれた快適なまちづくりの面では、地区計画制度の活用のほか、景観計画の取組を進める。民間の行為において良好な景観づくりを誘導する一方、公共事業においても調和のとれた美しい景観づくりを積極的に図っていく。

緑の面では、継続して公園整備や緑地保全などに取組む。また、官民連携による持続的で質の高いマネジメントの実現を図る。

| 重要業績評価指標（KPI）       | 基準値           | 目標値           |
|---------------------|---------------|---------------|
| 1. 市民満足度            | 67.1%（平成26年度） | 70.0%（平成31年度） |
| 2. 市内の高校・県内の大学等との連携 | 0件（平成26年度）    | 2件（平成31年度）    |

※1の基準値は『市民意識調査』の継続居住意向（住み続けたいと答えた方の割合）  
※1の目標値は年に約0.5ポイントずつ増加したと仮定した値

### 【個別施策】

- 公共交通サービスの維持・向上
- 地域の均衡ある発展
- 地域の魅力向上・活性化
- 風景づくり・緑づくりの推進      etc...

### 7-3. 総合戦略の枠組み

図表 総合戦略の枠組み

